

別紙3(第7条関係)

会議結果のお知らせ

令和5年度第2回宮古市子ども・子育て会議を、次のとおり開催しました。

令和6年3月29日

宮古市子ども・子育て会議

- 1 開催日時  
令和6年3月25日(月) 午前10時から午前11時10分
- 2 開催場所  
宮古市市民交流センター2階多目的ホール
- 3 議題  
特定教育・保育施設の利用定員の設定及び変更について
- 4 会議の概要  
(1)特定地域型保育事業所の認可及び利用定員の設定について  
(2)特定教育・保育施設の利用定員の変更等について
- 5 問い合わせ先  
宮古市保健福祉部こども課保育係  
TEL 0193-62-2111(内線1319)

## 令和5年度第2回宮古市子ども・子育て会議結果（報告）

- 1 日 時 令和6年3月25日（月）午前10時から午前11時10分
- 2 場 所 宮古市市民交流センター2階多目的ホール
- 3 出席者
  - (1)委員 13名  
加藤敏子、小松美加、前川真穂、櫻岡美穂、青山志保、加藤美季、川口太嗣、伊藤直子、齋藤玲子、坂下健一、伊東喜幸、岸田優、千田志保
  - (2)オブザーバー 1名  
沿岸広域振興局保健福祉部宮古保健福祉環境センター福祉課 主事 小野寺信乃
  - (3)事務局 6名  
保健福祉部長 佐々木雅明、こども課長 荒川東永、保育係長 鳥居裕司、子育て支援係長 若江奈津子、こども発達支援センター所長 多田広美、こども課 主任 岩間愛
  - (4)傍聴人 0名
- 4 内 容
  - (1)開 会
  - (2)挨 拶 会長より挨拶
  - (3)議 事
    - ①特定地域型保育事業所の認可及び利用定員の設定について（資料に基づき事務局より説明）

**【会長】**  
質問・意見等ないようなので、「特定地域型保育事業所の認可及び利用定員の設定について」は承認することとしてよろしいか。  
（異議なし）
    - ②特定教育・保育施設の利用定員の変更等について（資料に基づき事務局より説明）

**【委員】**  
定員をこれだけ減少させても運営できるということは、単純に子どもの数がこのくらい減っているという認識でよろしいか。  
（事務局）  
子どもの数は減ってきており、施設側の運営は厳しくなっている。また、施設型給付という国や県や市が負担している施設運営の費用について、定員が多ければ多いほど単価が低いもので、実際の人数に応じて定員を下げていけば単価も少し上がるため、運営としては実態に応じてその都度変更していくべきものと思われる。

**【委員】**  
岩手県の私立幼稚園連合会の中で、岩手県全体で子どもが去年から今年にかけて、700人減っている。その中で減る傾向が多いのが沿岸地区ということがデータで出ている。

**【会長】**

その他質問・意見等ないようなので、「特定教育・保育施設の利用定員の変更等について」は承認することとしてよろしいか。

(異議なし)

(4)その他

①宮古市保健福祉部の組織の改編について（資料に基づき事務局より説明）

**【委員】**

こども発達支援センターはどこの部分に入ってくるのか。

(事務局)

こどものそだち応援係に入ることになる。

**【委員】**

令和6年度の4月からこの体制になるとのことだが、例えば母子手帳をいただくのは、こども家庭センターに行き、母子保健係でいただくことになるのか。

(事務局)

母子保健係の位置は、現在と同じところに置くので、母子手帳は今まで通りの場所で受けていただき、検診等も保健センターで今まで通り行うことになる。

(事務局)

市民の皆様からすると、これまで窓口になっていた場所は変わらない。市側の組織体制として、今保健センターに入っている健康課の母子保健の部分の管轄がこども家庭センターに移るという形になる。場所は変わらないが、組織上の機能としては、こども家庭センターの管轄となり、未就学児の妊娠期から保育所・幼稚園のところ、健康の部分も含めてこども家庭センターが所管していくという形になる。

②その他

**【委員】**

コロナ前に学童保育の館長たちの情報共有、意見交換というものをしていたが、このような状況になったので再開をお願いしたい。また、学童保育で気になる子がいるときは5人にプラス1人の職員、5人以上は2人プラスなのだが、その際は保健師、教員免許がなければ配置はできないとこども課の方から言われている。今は人手不足でそのような免許を持っている方が、半日のところになかなか来ない。最近気になる子が増えている状況なので、受ける側とすれば体制を整えてそういう子どもの面倒を見たいと思っているが、なかなか配置ができない。この資格は市町村によって違うのか。国の方から来ているものなのか。

(事務局)

一つ目の学童保育を行う団体の情報交換については、コロナも5類になって1年が経とうとしているので、令和6年度からは再開に向けて取り組んでいきたい。二つ目の気になる子を預かる際の配置については、確認させていただきたい。

**【委員】**

うちは障害児者を預かっている事業所で、できれば「養護支援学校の学童保育などの職員を2年間の経験」で配置できるようにしていただけるとありがたい。この縛りがあると良い支援体制ができないので、検討していただきたい。

(事務局)

実務経験がある方でも可能とするか、そこも合わせて確認と検討をさせていただきたい。

**【委員】**

学童について耳にした話なのだが、支援級に通っている子がその学校の学童に入りたいとお願いしたら、「そんな子は面倒を見れない」と断られた保護者がいる。やはり職員不足でそのような発言をされたのかと思うが、今の市内の学童で支援級の子を受け入れている状況について教えていただきたい。

(事務局)

お尋ねの件は、市内で気になる子を受け入れている学童が何か所あるかということか。

**【委員】**

そのような子を受け入れる体制ができていのかどうかお聞きしたい。受け入れてもらえなくて困っている保護者がいたので。

(事務局)

ほとんどの学童でそのような子を受け入れており、2か所だけいないところがあるという認識があるが、体制ができていなくて対応できないのか、気になる子がいないのかは確認できていないため、確認させていただきたい。

**【委員】**

様々な立場の方に集まっていたら、宮古市の子どもをどうしたらより良く育てられるかという意見を少しでも吸い上げられれば、この会はより良いものになると思う。子育てというのは終わりが無いのだが、0歳から始まって、せめて小学校や中学校くらいまでは、私たちが責任をもって見ていきたいと考えているところもあり、自分の狭い世界の中だけで一生懸命よりは、様々な立場の方が集まっていたらいいので、それぞれの立場から意見が少しでも出ればまた次に繋げていけると思うので、ご意見をいただければ嬉しい。

**【委員】**

子どもを産むことに対して、他の皆さんのために産んで育てているわけでもなく、自分たちで育てていかなければという考えで子どもを育てているが、国や地域など全ての皆さんが子育てに対してすごく協力的だなと感謝している。子どもが少なくなっていると聞き、すごく寂しく感じる。子どもがすごく好きなのでもう少し増えてほしいと思う。このような機会もあるので、色々な意見を出しながら、より良い環境で子育てができれば良いと思う。

**【委員】**

私は宮古市で子育てができてとても自慢だ。神奈川のスーパーで働いていたのだが、子育て世代または子育てし終わった世代のパートさんと関わってきて、「子育てって大変。私には無理。」と最初思っていた。「なんで保育所休むだけでこんなに怒られているのだろう。保育所休むのはこんなに大変なんだ。保育料もこんなに高

いんだ。」と思っていた。神奈川から宮古に帰ってきて、保育料が無料だったり、病院が無料だったり、たくさん大人の方に支えていただき、私の中では宮古市で子育てできて自慢。だけど子どもが増えないのは何かわけがあると思うので、なんでだろうと思う。もっと子供が増えたら良いのにとと思う。

**【委員】**

川井地区で人数が少ないところで子育てしているが、市でも県でも色々してもらっているので私は満足している。皆が言っているように、もっと子どもが増えてくれるともっと楽しくできるかなと思っている。

**【委員】**

今まで保育所の中でしか生活をしてこなかったのだが、幼稚園や学童のお話を聞くことができ、これからは保育所以外のことにも目を向けて子育てをしていかなければならないと思った。

**【委員】**

高浜児童館でも学童保育を行っているのだが、他の学童保育の話聞くことがないので、とても参考になった。気になる子が毎年いるので、小学校に色々相談したり情報共有をすることで、学校での接し方を参考にしたり、保育なので学校とは違う接し方もするが、小学校との連携をとることがすごく大事だと思っている。先ほどお話されたように、学童保育施設の情報交換はぜひやっていただきたい。

**【委員】**

私は中学校と小学校に子どもが2人おり先生に保育所でもお世話になった。宮古市は広域市町村だが、海端の重茂・田老、山の方の川井・新里で同じ支援は難しい。その地域に合わせた支援が必要だと思う。各自治会などにもこういう政策をしているという話をして、今は子どもの挨拶も全くできない環境ができているため、親と学校だけではなく自治会も巻き込んだ子どもの支援をしていけば、子どもが住みやすい環境になっていくと思うのでよろしくをお願いします。

**【委員】**

保育料が無償化になって、小さい頃から集団に入っていて、その中でフォローが必要な子どもたちもいるかと思う。保護者が悩みなどをすぐ相談できたり、保育所・幼稚園等の先生方も色々な悩みがあると思うので、先生方、保護者、お子さんのフォローを今もされていると思うが、もう少しできれば非常に良い子育て環境になると思う。また、今高齢者の虐待がすごく増えていて、子どもたちの虐待状況も気になる場所であるが、コロナ禍で高齢者や子どもを育てる環境も変わってきているのかなと実感している。

**【委員】**

先ほどの学童保育を断られた話を私も聞いていて、館長が「あなたはだめですよ。」とは言えないはず。保護者が困ったとき、こども課の方で寄り添って話を聞いて館

長と保護者との関係がうまくいくようにしていただきたい。私は子育ては終わっているのですが、今は学童保育を運営しており、子どもが安心安全に、精神的に落ち着いて過ごせるように頑張っているのですが、温かく見守っていただきたい。

#### 【委員】

自分が子どもを持った時代と比べて、今の若い男性職員が子育てに関して積極的で協力的だという印象を強く持っている。保育園の送り迎えから日々の子育てに関わっているというのが、自分たちのころと全然違うと思いき意識が変わってきているのかなと感じる。商工会議所の立場からは、子育ての施設で特に家庭的保育事業所や小規模保育事業所については、新規に開業して始める方々もいらっしゃるということで、商工会議所の方でも新規の創業者ということで、開業相談など、子育てに関しては経験がある方でも経営者としては色々勉強しなければならないことがあると思う。そういうところは相談に乗っているのご活用いただければと思う。

#### 【委員】

労働団体の立場から、子育てに関して様々な法の整備、制度改正等が行われているが、その中で働いている方々が、その制度を知っているのか、逆に経営者・事業者側の方でそれを周知しているのかという課題を現在認識している。それを踏まえて、次の段階は産前産後の休暇・育休を取得できる職場環境であるのかということも課題として認識している。例えば、産前産後の休暇・育休はある程度ご存じだと思われるが、子の看護休暇についても、有給か無給かは別にしても子ども1人5日、2人いれば10日取れる、そういったことについても知っている方がいるかいないかということも我々としては問題視している。様々な制度・休暇について、正規の方非正規の方で、片方は取れる、片方は取れないということも、様々な問題になっていると思っている。また休暇・休業を取ったことで、その職場で不利益にならないような職場環境が大事なのかなということで、様々な問題に取り組んでいる。

#### 【委員】

子ども3人がこの3月で、高校、中学校、小学校全員卒業して全員進学ということで、子育てにはとんでもないお金がかかると実感している。うちの子どもたちが小さい時、5年前10年前と比べて、宮古市の子育て環境は整ってきているので大変ありがたいなと思いながら子育てをしている。子育てには終わりはないというのをまさに実感しているところで、長男が高校を卒業したのでひと段落と思いきややはりそうではなく、子育てはまだしばらく続くなと思っているところだ。その中で感じるのが、保護者の方が子どものことでトラブルがあった時に、先生のせい、学校のせい、市役所のせい、と他責にしてしまう部分が多いなと感じる部分があって、保護者の皆さんが子育てに関して広い視野を持って、地域で育てるではないが、自分の子だけでなく、同じクラスの子、同じ学校の子、同じ団体の子、という感じで、みんなで子どもを育てていける環境になれば良いなと感じている。また、5年前10年前と子育ての環境が変わっているので、私自身も情報をアップデートしながら色々学んでいきたいと思うので今後もよろしくお願いします。

### 【委員】

私も子どもが3人おり、上2人はもう就職しており、3番目があと一年で大学を終わるので、次の春で子育てはひと段落する。私が子育てをしていた頃は、子どもの人数がそこそこおり、行事も楽しく、スポーツ少年団でも人数がいたので色々な大会に出場することがそれほど難しくはなかったのだが、今はどこの学校でも野球が足りない、サッカーが足りないというのを聞いて驚いているところもある。支援に関しても、保育料が無償化になったことも知らず、給食代が無料になったことも知らず、いい世の中になっていると思っている。少し気になったのが、学童の先生方や現場の先生方と、市の方たちとの間に認識の差があると思った。また「気になる子」という話が出たが、気になるというのはどういう子なのか。知り合いの子が多動と言われ、私からしてみたら特殊とは感じないが、特殊学級と言われてしまったと聞いて、私が子育てしていた頃と今とでは認識が違うのかなと気になった。

### 【オブザーバー】

この1年間で国の政策や基準が変わっているが、国が全部の市町村の意見を聞いて政策を作るというのは難しいと思うので、県としてはこのような会議に参加させていただいて意見をいただいたうえで、実態と法整備が乖離しないように微調整できる役割を持っていると思うので、来年度も会議には積極的に参加させていただいて、皆様のご意見をお伺いできればと思う。

### 【委員】

色々な立場の方が色々考えてくださっていて、私も気が付かないことがたくさんあり勉強になって良かった。本当にありがとうございました。

### (事務局)

ご意見いただきありがとうございました。子どもの数は減っているが、令和元年の10月から保育料の無償化が始まり、その時の保育所等を利用している子が75.7%だったのが今は80%を超えている。未就学児の8割が保育施設や幼稚園を利用している。経済的な支援だけでなく、気になる子への気づきも早い段階でできているのかなと思う。また、宮古市の子育てに満足しているという意見をいただきありがとうございます。市の方ではそれらを周知し、このような取り組みをしていることを知らしめていくことが必要ということを改めて感じた。

### (事務局)

気になる子という話が何度かされたが、それぞれお話している「気になる子」の定義はそれぞれ違うと思うので一概には言えないが、国の方で発表しているように、学校で通常学級の中の約8%の子が何らかの困りを抱えている。障害も持ちながら通常学級にいることを発表しているので、その子どもたちを指している部分もあると思う。宮古市では、保育所・幼稚園のところで気になる子については訪問や相談をさせていただきながら学校へ繋ぐようにしているので、それを踏まえて通常学級で支援している子もたくさんいる。必ずしも障害があるから支援学級に通うという状況でもなく、通常学級で学習できる子もいるので、そういった子については色々

な人の手を借りたりお薬の手を借りることもあるが、支援していただいて通っているという状況。具体的な数は押さえていないし、分かるものではないが、8%くらいという認識。また、小学校に上がる前に就学相談をしており、その中で保護者と子どもとやりとりしながら教育委員会を含めて就学に関する相談の場を設けて、支援学級か通常学級か、特別支援学校という選択をするかを考える場を設けているので、突然「あなたは支援学級ですよ。」ということはなく、お話をされた結果支援学級という話が出てくることもあるが、あくまでもそれは提案という形で、最終的には保護者に決めていただくので、必ずこうしてくださいということはない。

(保健福祉部長)

本日は、年度末のお忙しい中、ご審議いただき、大変ありがとうございます。皆様からは、二つの施設の認可及び定員設定と、三つの施設の定員変更について、ご承認いただいた。これらの施設をはじめ、宮古市の教育・保育施設が充実して、より良い環境となるよう取り組んで参りたい。また本日は会長の進行により皆様から生の声をお聞きすることができた。ご参加されている方から率直な声をいただくことは貴重なことであり、我々にとっても大変良い会議となった。「こども課」は、この4月から母子保健の機能を加えて「こども家庭センター」となる。子どもの育ちの方も支援してくような形で、国の目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて、進んでいきたいと思う。委員の皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、より良い子育て環境となるよう、引き続き取り組んでいくので、委員の皆様には、今後ともご指導、ご支援をよろしく申し上げます。

(5)閉会

以上